

LINE相談利用者のニーズ 匿名性と相談のハードルの低さ

- 短文・単文でやり取りできるからいい
- いつも使っているツールで相談できる(気軽さ)
- 即相談したいときに使える
- だめだったらブロックすればいい(安心)
- 自分の欲しい情報のみわかればいい
- 友達みたいに気軽に相談したい
- 電話はしたくない(めんどくさいし声を聞かれるのは絶対に嫌!)
- 誰にも知られず相談したい
- 声を出すパワーはない・移動もできないが文字は打てる
- 匿名で自分を知られないで関係性を作りたい 等々



6

予期しない妊娠と妊娠葛藤の背景

予期しない「妊娠」が葛藤状態「妊娠、どうしよう・困った」に陥る理由
(予期しない妊娠がすべて危機的状況に陥るわけではない)

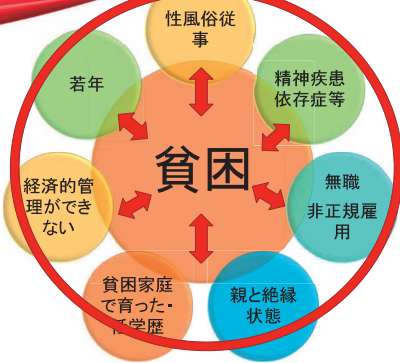
- 相手がわからない
- 若年
- 不倫
- お金がない
- 繰り返し中絶手術
- 仕事の中断
- 学業の中断
- 性被害
- 自身のメンタルの課題
- 離婚調停中
- 家庭内の不和
- 社会的孤立
- 未婚 等々



⇒ポイント!
これらの背景を単独ではなく複数・複雑に抱える

7

貧困



これらの背景があると起こりうること

- 支援機関とつながりにくい
- SOSを出さない(出せない)ので発覚しにくい
つながったとしても、途中で切れます
- 正確な情報などに感づかれさらにリスクを背負う

- 未受診 妊娠の放置
- 飛び込み出産
- 0日目の虐待死

9

相談から支援へ

- なるべく早い段階で公的機関とつなぎ、サービスが受けられるように支援する。相談者が窓口以外の地域の人・機関とつながるためのサポート

- 初回の相談や受診が支援を受ける第1歩!

<そのために必要なこと!>

- ✓対象者のニーズとリスクアセスメントを的確にしていく(多機関連携による支援を視野に)
- ✓特定妊婦から産後の継続した支援の流れの確認
(途切れさせない!サポート体制の構築)
- ✓多機関との日常的なやり取りの積み上げで機関間の信頼関係の構築
- ✓誰もができること:各機関やかかわりがあった時に「妊娠SOS相談」窓口の存在を知らせる



9

妊娠SOSのケース対応は連携による支援へ 重層的・継続的な対応を多機関で!!



10

妊娠SOS相談事業の課題と今後

- 予期しない妊娠をした女性の支援に必要な相談窓口の相談員のスキルアップ
- 予期しない妊娠をした女性のその後の受け皿の拡充:母子生活支援施設や医療機関(助産施設など)
- 予期しない妊娠をした女性の相談・支援対応の全国ネットワーク化(確実につなぐ支援をあきらめない!)
- 予期しない妊娠の未然防止策の拡充:性教育や避妊薬などについて~より危機的状況になる可能性のあるターゲットに対して提供していく
- 関係機関間の連携支援の充実:ネットワーク会議などの実施
- 相談・支援にSNSの活用を推進

11